

今回の取材内容

買い物支援の立上げサポート  
(大館市社会福祉事業団・市村SC)

事務局が現地取材した内容をお伝えする  
取材編、第4号です。

前の号から4回連続で県内の移動支援  
の取組をご紹介します。

県が把握する事例の中から、ここ数年で  
事業を始められた方へ、取組開始までの経  
緯を中心に取材しました。

今回は、社会福祉法人所属SCのサポー  
ト事例をお伝えします。

大館市 地域の「やりたい」を受け止めて  
サポートデイサービス車輛による移動支援

# 地域の力発見

# 情報整理力

# 情報共有の工夫

【大館市】移動支援の概要

運営主体	NPO法人kurasu (居宅介護支援事業所・通所介護事業所他)
対象者	地区内の高齢者 (自身で店内を移動できる方)
料金	年会費3,000円
頻度	月1回
車輛・運転手	デイサービスの送迎車輛でNPO法人職員が運転 (ボランティアが付き添い)

取組の経緯

R4年度末、協議体メンバーでもあるNPO法人の理事長(ケアマネ  
でもある)から「**デイサービスの車を活用して移動支援をやりたい**」  
という話がありました。

以前からデイサービスの送迎車両の活用方法を考えていたこと、  
ケアマネ業務の中で「スーパーで物を見て買い物したい」という  
住民の声を聞いていたこと、自分で買い物ができたほうが  
**介護予防になる**と考えたことも背景にあったそうです。

協議体の議題として、住民も含めて検討することにし、R5年度1年  
かけて話し合い、R6年度からスタートしました。

R4年度末  
NPOから相談

R5.4  
イメージ共有

R5.6  
協議体会議①

課題が発覚

R5.10  
協議体会議②

R6.2  
協議体会議③  
& 説明会

R6.4  
サービス開始

## 協議体での検討の流れ

1回目	運営の初期プランを示し、イメージを共有するところから始めた。
【SC】1回目会議の後、全国移動サービスネットワークへ相談したところ、課題が発覚した。	
2回目	運営の初期プランのどこが課題で、どんな対策があるのかをまとめて共有した。
【SC】2回目会議後、理事長と打合せ、運営方法を再検討した。全国移動ネットにも確認してもらった上で、契約書やチラシを作成。	
3回目	住民への周知方法等を検討。
3回目会議後、住民やケアマネへの説明会を行う。	

## 取組のポイント

### ＼ 地域の力の発見 ／

「やりたい」という声をキャッチし、できること・できないことを分け、できる範囲で取組をスタートできるよう、実現までサポートしました。

### ＼ 調べる ／

国のパンフレット(※)で事例を調べ、理事長のイメージに一番近い事例からアレンジすることで初期プランを作成しました。プランがあることで、全国移動ネットへの問合せもスムーズに行えました。

### ＼ 情報の整理・可視化 ／

取組の主体はNPO法人kurasuですが、初期プランや協議体での説明資料、課題の整理表などはSCが作成しました。可視化した情報があることで、話し合いの際にも様々な意見を引き出し、合意形成することができました。

(※)参考資料 2022.3 高齢者の移動手段を確保するための制度・事業モデル パンフレット  
2023.3 介護保険制度等を活用した高齢者の移動支援・送迎のための手引き  
→2024.3に「道路運送法における許可又は登録を要しない運送に関するガイドライン」が改正施行されているため、最新情報(詳細)は[こちら](#)。

## SCとは

高齢になっても地域で暮らし続けるためには、地域に「医療」と「介護」、そして「生活支援・介護予防」の体制が必要だと考えられています。そのうちの「生活支援・介護予防」の仕組みづくりを住民と一緒に進める役割を担うのが、SC(生活支援コーディネーター)です。

